

国語科「国語総合B（古典）」学習指導案

授業者 小俣真理子・大嶋成美

1. 対象 高校1年3-a組（習熟度別分割クラス）
2. 単元 用言の学習
3. 教材 ipad、古語辞典、大修館書店「国語総合（古典編）」p.45『枕草子』「はしたなきもの」（一二三段）
*補足資料；『枕草子』「うつくしきもの」（一四五段）

4. 単元の目標

- ①用言の習得。文章中の用言を的確にとらえさせる。
- ②文章の現代語訳に慣れさせる。
- ③現代と古典の世界の近似性に触れつつ、古典に親しませる。

5. 本時の展開

〈1〉本時の目標

- ・形容詞の活用を習得させる。且つ、意味を「プラス」「マイナス」で捉える感覚を持たせる。
- ・分かる部分を踏まえて、分からない部分の意味を推測させる。
- ・古今異義語の解釈に留意させ、適切な形で現代語訳をさせる。
- ・現代の、いわゆる「あるある」に相当する、『枕草子』の「ものづくし」に触れさせ、現代人と当時の人の感性の共通点と相違点とを探らせる。

〈2〉本時の評価

- ・本文について、理解できる部分を踏まえて全体のアウトラインを適切に推測できている。
- ・辞書で語意を調べ、適切な意味を選んで現代語訳をすることができている。
- ・形容詞の活用を習得できている。
- ・内容に関心を持ち、学習活動に積極的に参加している。

〈3〉学習の展開

学習内容・学習活動	評価・確認方法
①《形容詞の活用の復習》 形容詞の活用を確認する。	
②《推論する力と現代語訳のトレーニング》 上記の二段の文章（一二三段と一四五段）をプリントで配布する。 二つの文章を音読し、それぞれの現代語訳を推測させる。 訳の推測を確認し、理解できていない部分や単語の捉え違いなどを指摘する。 その後、辞書を使わせ、現代語訳（部分訳）に臨ませる。	ロイロノート ワークシート
②《形容詞の活用や意味の確認》 二つの形容詞（はしたなし・うつくし）をホワイトボードに掲示する。 各文章に「……もの」という見出しをつけるとして、二つのうちのどちらの形容詞を用いたらよいかを考える。 選んだ形容詞を、適切な活用形に直して、見出しや文章中の空欄に当てはめさせる。	(ロイロノート) ワークシート
③《古今異義語・多義語に対する意識付け》 古語辞典で、二つの形容詞の意味調べを行う。 各文章の内容に照らし合わせて、それぞれに適切な形容詞と、その現代語での意味を考えさせる。	
④《文学史的知識の確認》 『枕草子』とその「ものづくし」に関する解説を加える。	
⑤《基礎事項の確認》 形容詞の活用の種類と活用形の確認。文章中の重要古語の意味の確認。	Quizlet

数学（数学Ⅰ）学習指導案

授業者 岩井 宏平

1. 対象 高校第1学年 H29.6/10(土)②9:50-10:40

2. 単元 数学Ⅱ 第1章 第2節 等式と不等式の証明 7 不等式の証明

3. 教材 i-pad (授業プリントPDF, ロイロノート, アンケートメーカー) 4STEP 数学Ⅱ

4. 単元の目標

- (1) 簡単な絶対不等式の証明方法を理解する。
- (2) 絶対値とそれに関連した大小関係の性質について理解し、不等式の証明法について考察する。
- (3) 2つの正の数 a, b の相加平均・相乗平均の大小関係について理解し、その関係の利用について考察する。

5. 本時の展開 (第2時/全3時間)

前時で実数の大小関係の基本性質は既習しており、本時は実数の平方についての不等式における性質を理解し、それらを用いて表される不等式の証明方法について考察していく。

(1) 本時の目標

- ① 実数の大小関係の基本事項の定着させる。
- ② 実数の平方についての性質を理解する。
- ③ 理解した性質を用いて、平方についての不等式の証明を考察する。
- ④ 自らの考察を論理立てて発表する。

(2) 発表者に対しての本時の評価 (ルーブリックに基づく項目)

- ① 実数の平方についての性質を理解している。
- ② 性質を用いて、自ら考察したことを論理的に発表することができる。
- ③ 発表者の解法は最善であるといえる。

(3) 学習の展開

学習内容・学習活動	評価方法
①前時内容の不等式の証明問題の解答を共有する。	○ロイロノート
②実数の平方についての性質を理解する。	
③性質を用いて、不等式の証明を考察する。	○ロイロノート
④考察したものを発表する。	○ロイロノート ○アンケートメーカー

理科（物理基礎）学習指導案

授業者 檀上 慎二

1. 対象 高校第1学年
2. 単元 落体の運動
3. 教材 オリジナル実験プリント、放電式記録タイマー等測定器具一式、windows タブレット（1班1台）、iPad（1人1台）
4. 単元の目標
 - (1) 落体の運動が等加速度運動であることを、実験を通して理解する。
 - (2) 等加速度運動の公式を用い、自由落下、鉛直投げ上げの計算を習得する。
 - (3) 運動の合成・分解の概念を習得し、水平投射、斜方投射運動が、水平方向には等速直線運動、鉛直方向には等加速度運動であることを理解する。
5. 本時の展開（全1時間）

Excel を用いて表を入力し、グラフを表示し、近似曲線とその式を表示することについては、前の授業で学習済である。

- (1) 本時の目標
 - ① 落体の運動が等加速度運動であることを、実験を通して理解し、重力加速度を求める。
 - ② 放電式記録タイマーによる紙テープの記録をもとに、加速度を求める方法を学習する。
 - ③ データを分析する際、Excel のグラフ機能を用いて行う手法を習得する。
 - ④ 誤差の要因等について考察する。
- (2) 本時の評価（ルーブリックに基づく項目）
 - ① 正しく実験に取り組んでいるか。
 - ② 実験結果の分析が正しくなされているか。
 - ③ 実験結果の報告が正しくなされているか。
 - ④ 実験誤差に対する評価についての議論を適切に進め、妥当な結論を表現できているか。
- (3) 学習の展開

学習内容・学習活動	評価方法
①<実験方法の説明>	
②<実験の実行> 記録タイマーと紙テープ、おもりをセットし、紙テープを持つ手を離しておもりを落下させる。	○ペアワーク
③<実験結果の分析> 紙テープに記録された5打点ごとの区間の間隔 Δx をものさしで測定する。結果を Windows タブレットで Excel に入力して各区間の速度 v を計算し、時刻 t と速度 v の関係をグラフ（散布図）で表示する。Excel の近似曲線の機能を用いて、グラフの傾きを求める。	○ワークシートの写真
④<実験結果の報告> Excel のワークシート画面（表とグラフ）を、各自の iPad で写真に取り、必要事項を書き込んで、ロイロノートスクールで提出する。	○ワークシートの写真
⑤<実験誤差に対する評価> 誤差の要因について各班で議論し、結論をロイロノートスクールで提出する。	○ペアワーク

理科（化学基礎）学習指導案

授業者 吉田 正

1. 対象 高校第1学年
2. 単元 物質の構成（硫黄の同素体）
3. 教材 実験プリント，教科書（東京書籍 改訂 化学基礎），iPad（1人1台）
4. 単元の目標
 - (1) 同素体の定義と具体的な例を理解する。
 - (2) 同素体の違いが何から由来するものかを理解する。
5. 本時の展開（全1時間）
 - (1) 本時の目標
 - ① 同素体の具体的な例として，硫黄の同素体を実験で作って確認する。
 - ② 硫黄の同素体を観察して，同素体の違いが何から由来するものかを考察する。
 - ③ 実験結果のデジタル記録（動画，写真）をとる手法を習得する。
 - (2) 本時の評価（ルーブリックに基づく項目）
 - ① 正しい実験操作を行って，正しい結果が得られているか。
 - ② 考察の内容が論理的で，結論に対して妥当であるか。
 - (3) 学習の展開

学習内容・学習活動
①<実験方法の説明> 実験操作の演示を行い，iPad をカメラにして中継映像も表示する。
②<実験操作と結果の報告> 実験プリントに従って実験を行う。 ※実験プリントは「ロイロノートスクール」で配信済みで，予習も指示。 ※実験結果を動画や写真に記録し，「ロイロノートスクール」で提出。 ※操作と結果に関する評価は「簡単アンケートメーカー」を使用。
③<実験に対する考察> 同素体の違いが何から由来するものかを各班で議論し，結論をロイロノートスクールで提出する。 ※考察に関する評価は「簡単アンケートメーカー」を使用。

外国語（コミュニケーション英語Ⅰ）学習指導案

授業者 伊藤 元也

1. 対象 高校1年2組
2. 単元 Lesson 2・4
3. 教材 PRO-VISION English Communication I NEW EDITION、新ユメタン1、iPad
4. 単元の目標

- (1) 弁当に関する本文を読み、文章の構造を捉える訓練をする。
- (2) 弁当の国際的な広がりについて理解し、多様な文化について考える機会とする。
- (3) 時制を適切に理解し、使用できる素地を養う。

5. 本時の展開（全12時間）

- (1) 本時の目標
 - ① 海外の人に作ってあげる弁当について自分の考えを英語で表現し、友人と共有する。
 - ② 弁当の国際的な広がりについて理解する。
 - ③ 文章構造について、論理的に考察する。
 - ④ グループ内の意見をまとめ、発表する。
- (2) 本時の評価
 - ① 自分の考えについて、英語で伝えることができるか。
 - ② 自分で英文を読み解きながら、文章構造をきちんと捉えることができるか。
 - ③ グループ内の意見をまとめ、それを適切な形で発表できるか。
- (3) 学習の展開

学習内容・学習活動	評価方法
①<ユメタン>	
②<英会話> 与えられた課題に対して、友人たちと英語で会話をする。その後、自分たちのスピーチを録音し、提出する。	○ペアワーク ○スピーチ
③<文章整序> 与えられた英文を読み解き、論理構造にしたがって文章を並べかえる。	○グループワーク
④<プレゼンテーション> グループの意見をまとめて代表者が発表する。	○プレゼンテーション

社会科（世界史 A）学習指導案

授業者 田中 諒平

1. 対象 高校1年

2. 単元 古代オリエント地域

3. 教材 教科書・iPad・プリント

4. 単元の目標

(1) 世界最古の文明が形成されたオリエント地域の歴史学習を通して、人々の営みから見られる生活や文化を知り、それらがいかにして今日のような一つにつながる世界の形成に関わっているのかを考察する。

(2) 地図を有効に用いて、自然環境や民族の分布などに着目しながら、現代との相違点や共通点に自ら気付くことのできる力を養う。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・オリエント地域の諸民族の特徴や活動地域を理解する。
- ・世界の諸宗教について、その特徴を理解する。
- ・オリエント地域が統一と分裂を繰り返す経緯を学ぶ。

(2) 本時の評価

- ・地図から情報を読み取り、それを簡潔に表現できるか。
- ・ペアワークに積極的に参加できているか。
- ・自身の課題を、自身で気付くことができるか。

(3) 学習の展開

学習内容・学習活動	評価方法
①前回の復習 メソポタミアやエジプト文明について復習する。	keynote
②地図を用いた学習 地図アプリを用いて各都市の位置や写真を見て、それらの特徴を考える。	地図アプリ ロイロノート
③民族の名称と該当する事柄を組み合わず練習 ペアを組んで行う。その後、ロイロノートを用いてチェックテストを実施する。	ペアワーク ロイロノート
④次のプリントを配布	—
⑤「首都」の概念を考察 各自で考え、ロイロノートで提出する。	ロイロノート keynote

社会（日本史 A）学習指導案

授業者 成田 裕政

1. 対象 高校第1学年
2. 単元 近代国家の形成
3. 教材 教科書（第一学習社 高等学校 改訂版 日本史 A 人・くらし・未来），iPad（1人1台）
4. 単元の目標
 - （1） 明治政府の初期の様々な政策によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。
 - （2） 明治初期の外交政策は、欧米に対しては不平等条約の改正を行い、アジア諸国に対しては強硬な態度で臨んだことを理解する。
 - （3） 明治初期に、日本の領土が国際的に確定したことを理解する。
 - （4） 藩閥政府に対し、自由民権運動がおこり、国民の政治的関心が高揚し、結果憲法制定や国会開設に至る、一連の動きを理解する。
5. 本時の展開（5時間目／全7時間中）
 - （1） 本時の目標
 - ① 自由民権運動の開始、進展、激化、挫折について、授業を行う。
 - ② 各グループの授業に対して、しっかりと評価を行う。
 - （2） 本時の評価
 - ① 授業における態度・話し方が適切かどうか。
 - ② 授業の内容は適切かどうか。
 - ③ 制限時間（10分）にどれだけ正確に終わることができたかどうか。
 - （3） 学習の展開

学習内容・学習活動	
①<授業方法の説明（確認）>	各グループが授業を行う前に、決まりごとの確認を行う。
②<各グループによる授業>	・自由民権運動の開始 ・自由民権運動の進展 ・自由民権運動の激化と挫折 の3つの項目について、10分の制限時間の中、授業を行う。
③<評価>	グループの授業が終わるごとに、評価シートに記入する。
④<振り返りシートの記入および評価シートの回収>	振り返りシートを記入した後、各自のiPadで写真に取り、ロイロノートスクールで提出する。また、評価シートを回収する。

英語科学習指導案

授業担当者 香月 勝

1. 対象 高校第1学年（学究コースb組）
2. 科目 コミュニケーション英語 I
3. 教材 『MY WAY English Communication I』（三省堂）
4. 単元の目標
 - (1) 助動詞の意味と用法の確認と習得
 - (2) 受動態の文構造の確認と習得
 - (3) 本文の内容理解と表現の習得
 - (4) オリンピックの成り立ちや歴史、意義、問題点に対する知識の習得

5. 本時の目標

(1) 本時の目標

- ① 前回（Lesson 3 Section 1）の授業で扱った表現を再確認する。
- ② 予習せず初見で英問英答を通じて本文の内容を理解する。
- ③ 音読を通じて本文の表現を記憶し運用できるようにする。

(2) 本時の評価

- ① Reading : 早さと正確さ
- ② Comprehension : 本文の内容の正確な理解
- ③ Communication : コミュニケーションを通じて必要な情報を獲得する

(3) 学習の展開

学習活動	評価方法
① <warm up> ペアワークで既習レッスンの本文暗記	Quizlet 使用 ペアワーク
② 本レッスンの本文の shadowing, repeating を経て「速い音読」を行う。	Online timer 使用 各自
③ 音読した本文の内容を把握する。	ロイロノート使用（必要に応じて） ワークシート（Q&A 形式）
④ 定着のための memorizing	乱数メーカー使用 指名して発言
⑤ ふり返り	ロイロノート使用